水俣病の民衆史

民衆が肉声で語る
水俣病事件の半世紀

●水俣病激発村を徹底研究
●初めて書かれた闘争の全体像
●未公開の第一級資料を多数収録

『聞書 水俣民衆史』
『水俣病の科学』に続く
著者のライフワーク、ここに完結

岡本達明[著]

「全六巻」

日本評論社

刊行のことば

岡本達明

水俣病は、二〇世紀における世界最大最悪の公害事件であり、縦軸と横軸とがある。縦軸は加害と被害であり、加害者と被害者の相克である。横軸は病の社会面であり、被害者と社会とのあつれきなど、病に伴って生起していった社会事象である。これは、病自体と病の損害賠償の両面から生じた。水俣病事件の社会科学研究とは、一言でいえば、その縦軸と横軸および両者の相関を研究することである。

このような事件の研究で重要なことは、加害者と被害者の相克や社会面で、いったい何が起きどのように進展していったか、という事実の追究である。といっても、加害者がみる事実と被害者や民衆がみる事実は異なる。被害者や民衆が肉声で語る「水俣病の民衆史」として事件を記録し研究する点に、本書の特色がある。

本書は横軸の研究対象として、水俣病が激発した水俣湾沿いの月浦（つきのうら）、出月（でづき）、湯堂（ゆど）の三つの村を選ぶ。水俣病は当初奇病、伝染病とされた。その恐怖は三つの村で最も鋭敏にあらわれ、他の村ではその社会事象を研究することはできない。患者数が多い故に、病の損害賠償が社会事象となったときも、この三つの村以上に研究対象として最適な村はない。事件発生後約半世紀を経て村は変質し終わりを迎える。また奇病患者は水俣湾を主漁場とした漁師とその家族を中心に発生したので、水俣湾も事件の舞台として研究対象とする。

事件の縦軸は構図的にいうと、加害者の側は、チッソ・主力銀行、行政（県・国）、医学であり、被害者の側は、患者・家族、漁民、支援市民団体である。発生源工場労働者は、大争議で労働組合は分裂、第一組合は苦闘の末被害者側に立ち、第二組合は加害者側の手先となった。縦軸は、水俣病闘争史といいかえることができる。闘争は、人間の生き方とは何か、企業とは何か、医学とは何か、国家とは何か、を抜本的に問う幅と深さを持ち、日本資本主義の骨格をゆるがすものとなった。だがその闘争もやがて落ち目になっていく。

水俣病についての既刊書は多数あるが村を調べた仕事はない。闘争史も部分的な仕事はあるが全体を記述したものはない。長年水俣病を研究してきた方でも、本書全六巻で初めて読んだという記述が数多くあると思う。成否は読者のご批判をあおぐしかないが、百年後に残る事件半世紀の記録たり得ることを目標としている。なお事件は依然として継続中である。

第一巻

前の時代 —舞台としての三つの村と水俣湾

序　章　陸と海—肥薩国境の丘陵地帯と水俣湾

第一部　月浦村

第一章　百姓村の成り立ち
第二章　暗いうちから暗くなるまで
第三章　坪段と坪谷—同じ部落の別部落

第二部　出月村

第四章　新しい村
第五章　新しい時代
第六章　村の住み分け

第三部　湯堂村

第七章　漁師村の成り立ち
第八章　戦後の湯堂
第九章　漁師村の貧しさ

終　章　水俣湾の漁業

第二巻

奇病時代 一九五五—一九五八

第一部　月浦の奇病

第一章　患者と家族に起きたこと—患家レポート1～7
第二章　月浦で起きたこと

第二部　出月の奇病
第三章　患家と家族に起きたこと—患家レポート8〜14
第四章　出月で起きたこと
第三部　湯堂の奇病
第五章　患家と家族に起きたこと—患家レポート15〜23
第六章　湯堂で起きたこと
終　章　三つの村の奇病のまとめ

第三巻
闘争時代（上）一九五七—一九六九

第一部　奇病時代の漁民、患者・家族の一揆的闘争（57－60）
第一章　広がる海と人間の汚染（57－59）
第二章　市漁協一次闘争（57・1－59・8）
第三章　不知火海漁民の工場乱入と県漁連の闘争（59・10－12）
第四章　患者家庭互助会の闘争（59・11－12）
第五章　市漁協二次闘争（60・1－10）
第二部　水俣工場の大争議（62－67）
第六章　工場と労働組合という舞台
第七章　大争議の始めから終わりまで
第八章　一〇年戦争へ
第三部　患者闘争の新段階の幕開け（68・1－70）
第九章　市民会議の結成と患者家族の状況
第一〇章　政府の水俣病公害認定
第一一章　互助会の補償交渉と分裂、訴訟提訴
第一二章　弁護団の態勢と水俣病研究会の発足

第四巻
闘争時代（下）一九六八—一九七三

第一部　もう一つの幕開け、潜在患者の闘い（68－71）
第一章　死亡潜在患者は門前払い
第二章　生存潜在患者の苦難の道のり
第三章　九人の棄却者の行政不服審査請求と裁決
第二部　闘争本番（69－72）
第四章　チッソの水俣工場処理（69・8－71・3）
第五章　水俣病訴訟の結審までの経過（70・5－72・10）
第六章　新認定患者の補償闘争（71・12－72・10）
第三部　結着（72－73）
第七章　鍵握る主力銀行興銀、闘争の組み立て（72・3－73・3）
第八章　患者闘争のクライマックス（73・3－7）
第九章　第三水俣病事件と漁民闘争（73・5－11）

第五巻
補償金時代　一九七三—二〇〇三

第一部　補償金を中心に回る世界
第一章　加害者にとっての補償金—誰がどうやって払うか
第二章　被害者にとっての補償金—誰がどうやって得るか
第三章　村にとっての補償金—メダルの表が裏に、裏が表に
第二部　人間の深い物語
第四章　胎児性と小児水俣病患者たち
第五章　数奇な運命をたどって
第六章　申請患者団体の自民党支持者
第三部　お金の深い物語
第七章　利権としての水俣湾
第八章　利権としての水俣病

第六巻
村の終わり

第一章　湯堂—二〇〇三年滞在記
第二章　湯堂—二〇〇一〜二〇〇三年各戸調査
第三章　漁業と農業の状況
第四章　村社会の変貌
第五章　二〇〇三年水俣病患者の状況
終　章　村の終わり
補論1　漁民とは何か
補論2　水俣病事件のその後の経過　二〇〇四〜二〇一四年
事項索引
人名索引

＊なお、目次の一部に変更がありえますことを、あらかじめご承知おきください。

二〇一五年三月刊行開始　全巻予約受付中

第一巻	前の時代	舞台としての三つの村と水俣湾	三月刊／本体六五〇〇円
第二巻	奇病時代	一九五五―一九五八	四月刊／本体八五〇〇円
第三巻	闘争時代（上）	一九五七―一九六九	五月刊／本体九五〇〇円
第四巻	闘争時代（下）	一九六八―一九七三	六月刊／本体一〇〇〇〇円
第五巻	補償金時代	一九七三―二〇〇三	七月刊／本体八〇〇〇円
第六巻	村の終わり		八月刊／本体六〇〇〇円

造本――A5判・上製
各巻三五二～八二四頁
全六巻＝四万八五〇〇円（本体）
（頁数および定価変更の場合はご諒承ください）

岡本達明

おかもと・たつあき

一九三五年――東京生まれ
一九五七年――東京大学法学部卒業、新日本窒素肥料株式会社入社
一九七〇～七七年――チッソ水俣工場第一組合委員長
一九九〇年――チッソ株式会社退社
編著書――
『近代民衆の記録7　漁民』新人物往来社、一九七八年
『聞書 水俣民衆史』全5巻、草風館、一九八九～九〇年（松崎次夫との共編）
（一九九〇年度毎日出版文化賞受賞）
『水俣病の科学』日本評論社、二〇〇一年（西村肇との共著）
（二〇〇一年度毎日出版文化賞受賞）

●必要事項をご記入の上、最寄りの書店にお持ちいただくか、直接小社まで郵送または、FAX にてお申し込み下さい。

申込書　書店名　番線印	水俣病の民衆史［全六巻］
	□□□-□□□□　ご住所 お名前　　お電話
全6巻［　］セット　分売可［　］巻［　］冊	〒170-8474 東京都豊島区南大塚3-12-4 TEL:03-3987-8621　FAX:03-3987-8590 日本評論社 http://www.nippyo.co.jp/